

7. 教育センター

教育センターの目的は、卒前教育、卒後教育、生涯学習の連続性の中で、大学、附属病院を横断する教育活動を支援・実施することである。医学教育及び看護学教育の推進のため、教育センター内を改組し、医学教育部門と看護学教育部門の2部門にした。平成23年度の本センター活動については、大学の基本方針、運営計画に基く活動として、下記事業を実施した。

- 1) 大学の社会貢献と広報活動の充実に関する事業として、本センターが主管として取り纏める公開講座を、今年度は25回開催し、1,977人の参加が得られた。本公開講座に関しては、大学および4附属病院の独自性、自主性を保ちつつ運営し、一般市民および地域医療者を対象としている。学内に情報の提供を広く呼びかけ、公開講座の推進を図り、大学のホームページに掲載し、情報発信を行った。開催内容については下記のとおり。

- (1) 附属病院あたご健康セミナー 3回
- (2) 慈恵医大葛飾医療センター公開セミナー 2回
- (3) 慈恵医大第三病院公開健康セミナー 10回
- (4) 柏病院市民公開講座 2回
- (5) 新橋健診センター公開講座 6回
- (6) 看護学科公開講座 2回

なお、これまで大学が主催する公開講座の運営に関しては、私立大学経常費補助金の対象項目の一つとされていたが、今年度より除外された。

また、研究成果の社会還元・普及事業として、(独)日本学術振興会の委託を受け、ひらめき☆ときめきサイエンス「働き者の腎臓を知ろう ～血圧維持から再生医療まで～」を腎臓・高血圧内科・横尾隆講師を責任者に、7月29日6階実習室で実施し、高校生15名(申込時22名、キャンセル7名)が参加した。

- 2) 地域医療者対象公開講座を教育センター主管で7回開催し、参加者総数は98名であった。対象は本学の学外実習施設の看護師とした。開催場所は全てシミュレーション教育施設(C棟7階)で行った。

- (1) 心音セミナー 2回
 - 4月23日(土) 14:00-16:00 参加者9名
 - 9月3日(土) 14:00-16:00 参加者16名
 - 講義①心臓の基礎知識 福島 統 教授
 - 講義②心音の基礎知識 岡崎 史子 助教
 - 実習①シミュレータ「イチロー」を使っての心音聴取

- (2) 呼吸音セミナー 3回
 - 11月12日(土) 14:00-16:00 参加者20名
 - 11月19日(土) 14:00-16:30 参加者12名
 - 1月28日(土) 14:00-16:30 参加者15名
 - 講義①呼吸器系の基礎知識 福島 統 教授
 - 講義②胸部診察・呼吸系について 岡崎 史子 助教
 - 実習①シミュレータ「ラング」を使っての呼吸音聴取

- (3) 在宅人工呼吸器管理と救急処置 1回
 - 8月27日(土) 14:00-16:30 参加者16名
 - 司会：柵山 年和 准教授
 - 講義・実習①『在宅での呼吸管理』吉澤 明孝 非常勤講師
 - 講義・実習②『呼吸のリハビリについて』岩城 基 要町病院理学療法室 室長

(4) 在宅緩和ケアとオピオイド 1回

9月10日(土) 14:00-16:30 参加者10名

司会: 柵山 年和 東京慈恵会医科大学 教育センター 准教授

講義『在宅緩和ケアとオピオイドの使用法』

実演『シミュレータを使っての特殊な疼痛管理の実演』

腫瘍・血液内科 井上 大輔 准教授

3) 医学科・看護学科学学生の学外実習34施設の看護師を対象に、地域医療者のシミュレーション教育に関するアンケートを実施した。

アンケート実施日:平成23年1月25日～4月17日

回収数:213名

アンケート集計結果をもとに、シミュレーション教育の公開講座「在宅人工呼吸器管理と救急処置」、「在宅緩和ケアとオピオイド」を実施した。

4) シミュレーション教育施設に関しては、平成22年4月より現在のC棟7階に移転後も利用件数は、増加傾向にある。学生の臨床実習のみならず、研修医の自己学習、レジデント教育、外来・病棟単位での看護師勉強会等、利用者・部署の範囲が拡大している。一方で既存シミュレータの老朽化による故障や使用不能等も発生しており、機器更新の対応(購入、次年度計画等)が突発的に発生している。なお、今年度の施設・機器利用件数は、西新橋校435件、国領校50件であった。

また、葛飾医療センターに新設されたシミュレーション教育施設への機器、運用方法等に関する支援を行った。

5) 文部科学省平成22年度大学教育・学生支援推進事業大学教育推進プログラム「学生一人ひとりを育てる学習評価システム」は福島統教授(教育センター長)を責任者として、次のように実施した。

<医学科>

(1) コンピュータ試験

8月22日(月) 医学科2年生111名 ユニット名「生体調節のしくみ」

1月6日(金) 医学科4年生108名 ユニット名「病理学各論」

2月28日(火) 医学科5年生90名 「総括試験」

(2) Faculty Development

6月18日(土) 13:00-17:00 参加者 教員41名

テーマ:試験問題作成 講師:薬理学講座 木村 直史 教授他

(3) Staff Development

3月23日(金) 18:00-19:30 参加者 大学事務部職員21名

テーマ:学生支援について 講師:教育センター 福島 統 教授

(4) 海外視察

目的:fitness to practiseを育成するための学生支援等について

視察先:英国キングス大学 視察者:教育センター 福島 統 教授

期間:3月5日～9日

<看護学科>

(1) コンピュータ試験

2月29日(水) 看護学科1年生42名 コンピュータ試験

(2) Faculty Development

3月15日(土) 10:30-16:30 参加者 教員26名

テーマ:試験問題作成 講師:薬理学講座 木村 直史 教授他

(3) 海外視察

目的：ポートフォリオの活用について

視察先：米国ミネソタ大学 視察者：成人看護学 村田 洋章 講師

期間：2月25日～3月2日

- 6) 地域医療を行っている医師を対象に「プライマリ・ケアのための臨床研究者育成プログラム」を松島 雅人准教授(臨床疫学研究室・教育センター・総合診療部)を責任者として実施した。

【2期生・受講生12名】

- (1) 講義(eラーニング)：6コース 全44回

家庭医療学、EBMから始まる臨床研究、疫学臨床研究、質的研究、生物統計学コース、医療倫理と研究倫理

- (2) 第5回ワークショップ 6名参加 6月3日 6階講堂

【H22年度生・受講生14名】

- (1) 講義(eラーニング)：6コース 全44回

- (2) 第3回ワークショップ 13名参加 2月18-19日 G・H会議室

- (3) 第4回ワークショップ 10名参加 9月16日 6階講堂

【H23年度生・受講生14名】

- (1) 講義(eラーニング)：6コース 全37回

- (2) 第1回ワークショップ 14名参加 5月19-20日 G・H会議室

- (3) 第2回ワークショップ 11名参加 10月6-7日 G・H会議室

- 7) 看護キャリアサポートセンター主催で第1回エデュケーションナース研修を開催した。

目的：各部署の看護職員全体の臨床看護の質向上

対象：本学看護師4等級レベルの教育担当者 4機関47名参加

日時：8月22日～11月26日 20日間

8) 教育情報の公表

教育補助金検討委員会が主導し、経常費補助金「情報の公表」に係る項目のデータを、関係部署にデータ提供のご協力を得て、平成23年9月30日に本学ホームページに掲載した。

- 9) 卒前・卒後教育教材の作成とeラーニングの支援を行った。eラーニングは年間31コース257回を実施した。内訳は次の通り。

- (1) 医学科学生 13コース、55回(3年次症候学演習、4年次基本的臨床技能実習など)

- (2) 看護学科学生 7コース、23回(2年次情報科学、3・4年次在宅看護学実習など)

- (3) 看護専門学校学生 2コース、4回(1年次情報リテラシーなど)

- (4) 大学院博士課程 6コース、63回(疫学臨床研究、生物統計学など)

- (5) 卒後教育(研修医、看護師、地域医療者など) 9コース、175回(鏡視下手術トレーニングなど)
(6コース63回分は大学院博士課程と共通)

- 10) 4機関合同の教育活動の支援において、本センターが主管しているテレビ会議運営委員会主導のもと、4機関を接続したテレビ会議システムを運営し、年間8回のテレビ会議システムの利用支援を行った。利用内容は4病院合同セーフティーマネジメント、成医会、災害対策会議などであった。